



ねぎぼうず 新聞 vol. 01

シングルマザーと子ども応援事業 ねぎぼうずプロジェクト

日本らばい協会は今年で設立22年を迎えます。新しいプロジェクトを立ち上げる群馬県は、わらべ唄の宝庫です。未来を担う子どもたちへ、うたのメッセージを送ります。

下仁田のわらべ歌

風さん風さん やんどくれ
晩にはとろろをしてあげる

上州空つ風の強さと言ったら並ではない。吹き飛ばされそうな勢いの風は桑の木の根元もえぐり、土埃は差すほどの痛さで顔に吹き付ける。その勢いを時でいから止めておくれ、と子どもたちはわらべうたにしてうたったのだ。

でえじな 天道様
だれがかくした
雲めがかくした
早くださねど
ハサミでちよん切るぞ

向こう山で光るのは
月が 星が ほたるか
月ならば おがみましょ
ほたるなんざあ あかんべえ

群馬の女性たちの月待ち信仰。満月の月の出に、近くのお山に登り月を拝んだのだ。満月、お産が軽くなる、子宝が授かる、財宝が授かるといった、月を拝む信仰があったのだ。かかあ天下と空つ風、自然の恵まれた土地はさらに寒さも強力。働きの女性たちの強さはピリリとした寒さのなかで忍耐と我慢を身に付けたのかも知れない。さっぱりしてこだわらない上州人の気質は明るさだけじめの明快さを物語っている。

おなかま大募集号!!

未来は子どもたちの中にあります。私たちは小さな光の中でみんなができる限り子どもを守ること尽力しなければなりません。子育ては根本的な形さえ見直すところまで来ています。家庭も、保育や幼稚園、学校も教育も、仕事場もそのありようを変えようとしています。自給力のない国にあって、農地と自然のある場所です。自給自足の農業に触れ、子育てをしたい。そのためにその場所に働くもの、職場や生産性のある起業や、生き方に沿った事業を生み出すことを、していきたい。

命に直結した女性たちだからこそできる「町と人と自分づくり」の実現を望みます。



下仁田は優しい街です。本宿は市外から西に8キロ、鑄川の渓流に沿った集落は、懐かしい昔を感じます。土蔵や漆喰の建物、近くには「西牧閑所」もあったという事です。この本宿のバス停前に「坂口屋旅館」があります。何の偏屈もない旅館を一回りしてみると階下は渓流を目の当たりにした三階建てであることが分かります。私たちはこの趣のある旧坂口屋旅館を改修し、シン

時代を作る女性たち

大変な時代です。コロナは日本だけではなく世界を恐怖に突き落としました。私達は自分の命の危機に直面し、普通の当たり前の生活が、本当に大変な困難にぶつかって居るのだと知らされました。家族のありがたさや医療の大切さを改めて認識しました。

また、衣食住すべてをみなおし、生活のありようも替えざるを得ない事態にも直面しました。その上追い打ちをかけてまさかの、ロシアとウクライナの戦争。尊い人命が無残に殺されていくばかりか、他国である国々にも様々な影響が出てきています。自給力のない日本ではあつという間に物が上がり、これからは安穏と消費王国など行っていられない事態がやってくるでしょう。

下仁田町本宿(もとじゅく)に
シングルマザーのシェアハウスが
誕生します

志と意思と未来を作ろうという女性たちを広く募集します。全国から応募してください。(西館好子)

おなかま募集!!

シングルマザーと子ども応援事業

群馬県下仁田町「ねぎぼうず」募集要項

日本らばい協会は、自給自足を目標にした農業、自然の中での安全な子育て、安心な生活基盤を確保できる居場所づくりを目指して今春、女性村プロジェクト「ねぎぼうず」を始動させます。

仕事や仲間作りから始めて、アイデアを出し合って、起業をすることもあるでしょう。女性たちのユートピアを目指して、あなたも女性村の建設に参加してみませんか。みんなで一緒に考えて、女性の底力を発揮していきましょう。

サポート内容…半農半X (Xは仕事)

- 移住するための母子の住居のあっせんをします。シェアハウスあり。
- 半Xにあたる仕事場として、コールセンター、農家のお手伝いなどを確保しています。
- 農業や誘致事業への就労支援をします。
- 最初の一年間は体験期間とし、さらに仕事の充実や、経済的な自立、生き場が見つかれば、永住も可能です。その場合、住宅の斡旋も可能です。
- 生産した農作物の販売や加工、手工芸品の制作。バザールの開催、下仁田町とのコラボによる町おこし事業など、創意工夫で豊かな女性村の展開をします。
- 幼稚園・保育園、小・中学教育の学習支援態勢、簡易医療、相談態勢も整えています。

応募規定

- ◎シングルマザーとその子どもたち(子どもは中学生以下)
- ◎自立を目指し、楽しく仲間と村づくりをしてみたいという意識を持っている人
- ◎自然が好きで農業をやってみたい人、情熱のある人
- ◎この場所で起業をしてみたいと考えている人

2022年度から順次募集

4月半ばより、募集を開始。第1期は、7月末日締め切りと致します。

審査を経て、夏より、入村開始を予定しています。

応募書類:履歴書、志望動機を書いた作文

お問い合わせは、日本らばい協会「ねぎぼうずプロジェクト」事務局まで

TEL:03-6458-0283 E-Mail:info@lullaby-japan.com

グルマザーの皆様のシェアハウスにすることにしました。都会ではとても味わえないのんびりさ、この街並みに子どもたちの声が聞こえるようになることを願います。そういえば一階の一部は洋風な玄関を開けると近代的な喫茶店であったようです。ここも使えますね。以前は町の人達の憩いの場所でもあったそうです。誰かやってくれる人がいるといいですね。

西牧小学校の跡地が私たちの「ネギ坊主プロジェクト」の拠点です

シェアハウスから歩いて5、6分の場所に西牧小学校が建っています。三階建ての堂々とした校舎は少子化のおおりにうけて廃校になりました。近代的な何もかもがそろっている校舎です。

ここでは農業をお勉強したり、収穫したものを整理したり、加工したり、子どもとあそんだり、町の人と交流したり、高齢者の皆様とお茶をのんだり、さまざまに人が楽しく憩える場所を作りたいと思っています。

校庭では音楽会やお芝居のイベントもできますね。また、このプロジェクトに賛同して下さる方たちの企画されたお部屋もできますし、研修も指導も料理も工芸や染物さえできるのです。アイデアいかんで皆様の企画や実行も可能です。販売所も作ります。行って楽しい、居てうれしい、動いて元気、みんなと合える、又行きたいという居場所づくりの目的です。

「ねぎぼうず」に大人たちと子ども達の桃源郷を想像し、実現を夢見しています。

藤澤 昇

お母さんの笑顔ほど子供にとって幸せなことはない。日々の暮らしに疲れながらも、ふと子供の顔を見た時にこっくり笑うお母さんの笑顔が、子供にとって一番安心できるひと時である。群馬県下仁田町に女性村を設立する「ねぎぼうず」プロジェクトは、お母さんの笑顔がたくさん見ることが出来る場所であってほしい。お母さんも子供たちも、生きることによって、優しい社会で、明日への希望が持てるプロジェクトであってほしいと心から願っている。

徳永 雅博

コカ・コーラ財団様のご支援により、西館理事長の長年の構想が形になります。シングルマザーの経済的自立、精神的自立を目指し、現代社会に見合った女性村を、下仁田町のご協力を得て、大自然の中でのびのびと子育てができる環境のもとに作っていきます。将来ここで育った「下仁田育ちの若者達」が社会に出て、どんな活躍をしてくれるのか？ワクワクしながら、このプロジェクトに参加できることを大変うれしく思っております。

神長倉 万美子

町のみなさんと一緒に、心に傷を受けている子どもたちの「こどもよろず相談室」に是非顔を出してください

医師や専門分野の諸先生方の応援を得て、教室の一つを相談室にします。虐待、いじめ、引きこもり、現代の子供を抱える闇は根深く深い闇を抱えています。らばい協会は未来を作る子どもたちの為に、心身ともにより具体的に相談を受け、出来る限りの支援や援助を行うつもりです。子供達とふれあい、大人たちの知恵をたくさん下さいませ。

message

理事の応援メッセージ

配食での支援、女性村建設、らばい協会の計画に最初からかわって来た私としては下仁田での女性村実現が叶う事を本当に喜んでいきます。

子どもを取り巻く環境が悪い現代、体が健康でなくては心も健全には育ちません。心身は共にはぐくまれていくものだと思います。

医師の立場から子どもたちとその母親の心と身体の悩みを聞き、相談役として寄り添ってまいりたいと思います。

みどりの中で農業を楽しみながら働く母親と自然の中で伸び伸び遊び学べる子

どもたちの姿が見られることを楽しみに下仁田に通いたいと思います。

相川 厚

子守唄をひたすら追いかけての四半世紀、その集大成ともいえるべき下仁田の女性村への思いをこの時代に実現する素晴らしい事を今感じています。人は100年という中国の諺にもありますが何世代にも渡りみなさんの拠り所となる場所になりますように信じ願っています。

井上 麻矢

知らない土地、知らない町で新しい生活を始める。今までと違う空気を感ずる。楽しくみんなが集い、新しいコミュニケーションが始まる。そんな場所になればよいと思います。新たな挑戦を成功させる為。ねぎぼうずプロジェクトです。頑張りましょう。

北島 成治

「女性村への大きな期待」

日本の歴史の中から育まれた伝承や手仕事といった技術を持った女性たちの

僕が

「ねぎぼうずプロジェクト」を

応援する理由

CI戦略プロデューサー
イベント学会副会長／日本デザインコンサルタント協会理事

福井 昌平

自立に向けたキャリア形成の舞台となることが大切だ。下仁田町側からは、人口減少傾向への対応や中核となる農業の持続可能な発展や、豊かな伝統文化や地域文化の持続可能な育成の協働者として、活躍してくれる事だろう。

実践的なNGO活動に向かっている。金融グローバルイズムと新自由主義に染まった日本は、瞬く間に、非正規雇用の拡大や子育て環境の劣悪化に襲われた。特に、2020年からのコロナ禍によるパンデミックで、子育てシングルマザーには過酷な日常が襲い、1日でも早く子育てシングルマザーが、安心して子育てできる環境と経済基盤を確保出来るコミュニティーを、「下仁田葱」と「蒟蒻」で有名な下仁田町に構築しようと言うのだ。何と、推進するプロジェクトとコミュニティーの名称がもう既に、シングルマザー支援センター『ねぎぼうず』と命名されている。車中での、西館さんの熱い思いを聞きながら、私も積極的な応援団の一員になろうと決意した。

農村作家として活躍される山下惣一さんが、「農村経済は、『市場経済』と『地域経済』と『自給経済』で構成されるが、持続可能で循環型のコミュニティー形成からの視点では、3:3:4ぐらいの比率が良い」と主張されているが、偉大な農村である下仁田町のあるべき姿にコミットする知識は、今の私にはない。でも、下仁田町に集う子育てシングルマザーが経済的に自立するためには、下仁田町の『市場経済力』と『地域経済力』と『自給経済力』に、彼女達がどのようにコミットメント出来るのかの見極めが、プロジェクトを推進する上でとても大切だね。

環境支援」や、自給自足の「農地活用支援」等が提議されているそうだが、このようなプロジェクトで一番大切なことは、「シングルマザー（子供の存在も含む）と下仁田町住民との創造的連携」に結び付くような関係構築だと思ふ。子育てシングルマザーからの視点からは、緊急避難対応であるだけでなく、子供の豊かな人間力を育む場であると同時に、自分の社会的

最近、日本政府は国土交通省と農林水産省と連携して、『都市と農村の創造的連携』推進を志向し始めている。農産品を『市場経済』観点からだけで見るとは、隣接する都市と農村が「地域的自給圏」連携を目指したり、多様な専門的職能を持った人が積極的に農業に関わる『半農半X』の積極的な拡大を促進させたり、農村社会の持続的な発展に必要な多様なコミュニティー文化やコミュニティーサービスを構築する為の「関係人口」の創造だ。私は、子育てシングルマザーが、先ずは緊急避難者であったとしても、やがて、下仁田町に豊かな持続的な成長をもたらす「半農半X」者であり、専門性を持った「関係人口」者に育ってくれる事を確信している。

参加や応援が欲しいですね。

素晴らしい文化を残し、それを活かしたい女性たちが一度は行きたいという町になるように希います。私も行きたい。

剣持 英子

「子育ての桃源郷」

盛岡から約70キロ離れた所に岩手県西和賀町があります。かつて沢内村と呼ばれ、日本有数の豪雪地帯です。老人医療無料化や乳児死亡率ゼロを目指し「村人たちの命は自分たちで守った村」として全国に名を馳せました。

この地で養護施設みちのくみどり学園の子どもたちとの関わりが約40年続きました。最初の20年間は「夏季転住」として、施設の子どもたちが職員と一緒に10日間ほど移住し、村の人々と暮らして共にしました。学園の子どもたちが村に来るとお年寄りたちが元気になる喜び、子どもたちもまた村の人たちの優しさに触れ、癒しの時間を楽しみました。

その後、さまざまな土地に転住の居場所を発見させ、「全国まるごと児童養護施設」として村全体を施設という活動を10年間行いました。それから10年、村の人たちからホームステイの提案があり、子ども達も住みたいというほど訪ねる土地に愛着が育ってきました。施設の子どもの人達が子守唄を唄って一緒に「川」の字で寝たと聞きました。

昨年の暮れ、オミクロン株によるパンデミックが年明け早々に予想される前段で、尊敬する姐御・西館好子さんから、「今度、シングルマザーを支援する子育て施設を、群馬県下仁田町に創るのよ!!あなたも応援して。12月17日に、下仁田町長と関係者とのミーティングと現場の視察に同行してくれない!!」と、突然の連絡が来た。西館好子さんとは、日本子守唄協会を設立された2000年頃からの付き合い合いますが、何時も、事の始まりは「福井さん!!」と云う力強い西館さんの発議からスタートする。そもそも昭和21年生まれの私は、七人兄妹の末っ子で、三人の姉達と三人の兄達に囲まれて育った。そんな背景があるから、そもそも歳上の行動的なお姉さんの存在には、スタート時点から従順で素直な気持ちで受け入れてしまふ癖がある(苦笑)。

下仁田町には、西館さんの車に乗せてもらって訪問したが、道中でのプロジェクトの発生の流れをご説明いただいた。西館さんが主導する「日本らばい協会」(日本子守唄協会の後継団体)の活動は、最初は、母と子の大切な絆を育む「子守唄」の活性化と文化的な価値の保存と継承がスタートだったが、段々、子育て世界の現実に直面され、「児童虐待防止」や「シングルマザー支援」への課題解決に向けた

(2022年3月15日)